［活動報告］

19世紀学学会活動報告（2008年度*1）

2008年４月25日（金）	**研究講演会**＊2 松本　彰（新潟大学人文学部）「19世紀学とは何か：19世紀ドイツにおける市民社会・教養・学問」
2008年５月24日（土）	**第３回シンポジウム「19世紀学とは何か―19世紀学研究の可能性」**＊2 ●廣田　功（新潟大学経済学部）「19世紀と経済学の進化」 ●野崎眞澄（新潟大学理学部）「19世紀はダーウィンの時代：生物学的世界観の大革命」＊3 ●曽田長人（聖学院大学人文学部）「人文主義研究と19世紀」＊3 ●金山亮太（新潟大学人文学部）「血は水より濃いのか：英文学の場合」＊3 ●後藤康志（新潟医療福祉大学健康科学部）「19世紀における教育とメディア」＊3 ●木部美知子（新潟医療福祉大学健康科学部）「近代看護の確立と看護教育―19世紀という時代―」＊3
2008年８月25日（月）	**特別講演会**＊2 Thomas SCHWARZ (Visiting Lecturer in New Delhi, India/ DAAD), “Hybridity. A Critical Conceptual History”
2008年９月７日（日）	**公開シンポジウム「いまさら、ヨーロッパ―ARS（技術、芸術、学問）のあり方を問い直す」**＊2 ●川田順造（文化人類学）「技術、学問の指向性に見る＜近代＞」 ●松本　彰（音楽史）「ハーモニーの科学と美学―クラヴィコードによるヨーロッパ音楽再考―」 ●陣内秀信（建築学）「都市の劇場性―イタリアを中心に―」 ●坂内徳明（ロシア民俗学）「ロシア民衆木版画に見るヨーロッパ近代」 ●村上陽一郎（科学史）「19世紀の＜デモクラシー＞概念について」

2008年10月４日（土） －５日（日）	**第３回国際シンポジウム「19世紀の再評価―19世紀の可能性―」**[*2] ● Eric BENOIT, “19ème siècle français et modernité: auto-valorisation, dévalorisation, revalorisation” ● Wolfgang BRAUNGART, „ Das Erbe der Literatur des 19. Jahrhunderts“ ● Dominique JARRASSE, “Les autres XIXe siècles. Réévaluation des arts et débat sur la modernité“ ● Joachim RADKAU, „ Deutsche Lebensreformbewegungen um 1900“ ● 臼井隆一郎「東亜という広域概念―明治維新との関連で」 ● 大角欣矢「世界認識としての芸術享受―エドゥアルト・ハンスリックの音楽美学にみる芸術と学問の仲介の試み」 ● 佐々木充「シェイクスピアはロマン派？―19紀前半におけるシェイクスピア―」 ● 橋本一径「Des empreintes de pas aux empreintes digitales : l'identification humaine et la médecine légale française au XIXe siècle（足跡から指紋へ―19世紀フランスの法医学と身元確認）」 ● 廣田　功「『近代フランス料理』成立の社会文化史的意義」
2008年11月27日（木）	**第３回プロジェクト研究会**[*2] ● 鈴木佳秀（新潟大学）「ヴェーバーと古代ユダヤ教」 [*1] 2008年11月末日まで [*2] 19世紀学研究所と共催 [*3] **本誌に掲載**